

〈美術品との対話〉 列品解説について



大和文華館では、開館以来、毎週土曜日の午後2時から、列品解説（展示場で陳列品の一つ一つについて解説する）を行っています。

今日、美術の歴史や理論の研究が盛んになり、美術館も美術研究のための重要な施設になって参りましたので、当館でも、列品の一つ一つに、それぞれ名称、作者、製作年代、材質、寸法などのデータを和英両文で表示しています。これは云わば美術品の戸籍簿のようなものでありますが、そのほか用語の説明や類品、様式、美術史上の意義など、作品に応じて必要と思われる記事を簡単に記した解説札をつけています。

もっとも大和文華館では、美術がその美なるものを、もっともすっきりと発揮して、みる人の心に親しく訴えることを第一の目的としていますから、これらの解説札はなるべく鑑賞のさまたげにならない様、気をつけて配置しています。本当は直接手を触れて鑑賞していただきたい美術品ですが、大ぜいの方々に見ていただくため止むを得ずガラスケースの中に入れてある訳ですから、私どもの解説も単に専門的な研究結果をお話するのではなく、少しでも皆様方の鑑賞のお役に立つ様、一つの美術品のもつ興味深い履歴、作品にまつわるエピソード、類品の所在、製作技法、用途など、さまざまな観点から御参考になると思われるお話をするものです。それは皆様方の鑑賞をより深く自由にしていただくためのものであり、もちろん御質問も大歓迎です。そして、この列品解説の時間は、私ども館員が来館される皆様方と直かにお話の出来る楽しい一時であり、美術品を通して交わされる対話こそ人生の喜びを感じる貴重な体験であります。

もとより古今東西にわたる多種多様な美術品の一つ一つについて、完全なお話しが出来る訳ではございませんが、私どもも最善の努力をかたむけて皆様方の御要望にこたえるつもりでおります。今後共、大和文華館の土曜列品解説の時間を大いに御利用下さい。

なお、土曜日以外に、グループなどで鑑賞される場合、御要望があれば列品解説をお引受けすることも出来ますから、事前に御連絡下さい。都合のつく限り御要望に応じます。

季刊 美のたより No.7

昭和43年10月1日

発行 大和文華館